

大正十年三月

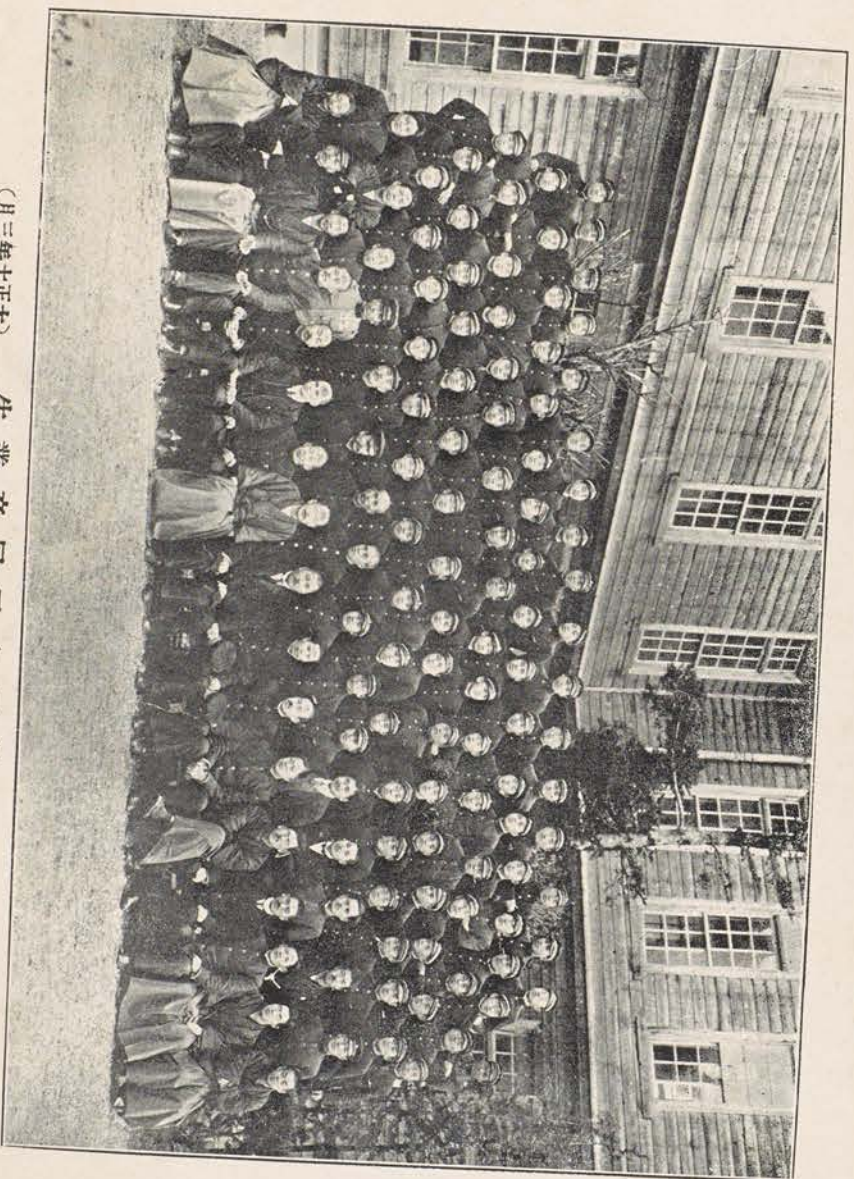
校友會雜誌

滋賀縣立彦根中學校校友會

第貳卷第參拾號

第三十號目次

樋北 北白藤松同 同木樋松高八下 樋八白龍川
上 川村田下 下 上下山木村上木田本島
佐 亮一由紀正義 長亮義四法書亮注紀賢丈
一郎藏六雄夫 保一夫郎雲一一雲六瞳内



第 三 十 三 回 卒 業 生 (大正十三年月)

校友會雜誌 第二卷 第三十號



講演

米國日曜學校幹事

哲學博士ブルベーカー氏講演

大津教會牧師 矢部氏通譯

——大正九年拾月二拾日——

私の名はブルベーカーであります。只今校長さんが私を紹介するのにブルベーカーとおつしやつた時、皆様が笑顔をなされました。皆様は私が妙な名を持つて居ると思はれたのでしよう。蒼いバン屋さん、の様な名だと思つて笑はれたんでしよう。實は私は一七二〇年スイツアーランドからアメリカに移住した祖先から出まして原語はブルーバカと云つたのです。それは小さい河にかゝる小橋と言ふ意です。

講演

一

若しも諸君の中に眼の悪い人があるなら、早速眼の専門の醫者に診て貰つて適當な眼鏡をかけた方がいい眼が悪い結果頭腦が悪くなつて學校の勉強も進まぬ原因になります。又眼に合はぬ眼鏡をかけても頭に影

講演

三

バカ(馬鹿)と云ふのは日本語ですから私の名は日本に深い縁があるから日本語でも話せるかとも思ひますよ。

私は今青年諸君——日本の中等学校の諸君に向うて講演の出来るのを光榮と思ひます。私はもと／＼教育事業に興味がありまして、私の居たデイトン市の學務委員を二年間やつて居ました。私の仕事は中學校や小學校の先生達でも私一個の考へで免職させると云ふ重大な權利を握つて居たんです。時には先生の悪い時もあるが生徒の悪い時もあります。が調べたら結局は生徒の悪い方が多いのでした。

私はアメリカの學校制度について話したいと思ひましたが今日は學生の健康に就て話しましょう。健康は學生にとつて最も必要なものです。將來國家の重大な責任を双肩に擔ふべき諸君は身体を大切にせねばならぬ。健康は私の國に於ては重大視してゐますが同様の貴君方のお國に於てもさうでせう。

この青年の健康を増進するためには、色々のゲームが必要です、例へばベースボール・フットボール・バスケットボール・テニス等のゲームは日本固有のものではなかつたのでせう。

ゲームをよくやれば、筋肉を發達させ、健康を維持することが出来る。アメリカの中等學校で、只今流行するのは、バスケットボールが一番です。

昨年も私のオハイオのデイトン市の中學校のバスケットチームがアメリカ全体の中等學校のバスケット大會で大勝利を博しました。大いに愉快でした。ゲームをして先方に勝たせるのは宜しいが、先方に勝

たせると自分の方が負けねばなりません。ゲームに負けるのは、私は大嫌ひです。

昨年の優勝チームが凱旋した時には、私は雀躍して帽子を空へ投げ上げて、快哉を叫びました。私は青年がそれ程の氣慨で運動するのが必要だと思ひます。日本にはあまりバスケットボールが流行らないそうですね。どうでせう。此の學校はどうだか知りませんが。

ア、この組織立つたゲームが例へばベース、テニスバスケット等の如き人間を建設的に作りあげるのです。青年がグラウンドを自分の運動場とすることの出来ない様なものは大きくなつて職業を失ふものだ云ふ諺がござります。其の組織だつたゲームをすることは筋肉を丈夫にさせますが、もう一つ大切な事は眠るといふことです。運動するときに思ひ切つて運動し、定まつた時間には規則正しく眠つて体を休めなければ學校の勉強も思ふ様に出来ないで、クラスルームでクナ／＼やる様な事になります。眠りを失ふ人の顔は先生が見ればチャンド分つて此の様な連中は後で如何となるか分つて居ます(ハ、ハ、ハ)遊戲と睡眠とは此の様に大切でありますが更に第三に大切なのは眼であります。眼の悪いのは實に困つたもので私も大いに研究して居ります。私は四つの異つた眼を以て居ます。眼鏡をとると私は諸君が誰だ分らなくなります。

若しも諸君の中に眼の悪い人があるなら早速眼の専門の醫者に診て貰つて適當な眼鏡をかけなさい眼が悪い結果頭腦が悪くなつて學校の勉強も進まぬ原因になります。又眼に合はぬ眼鏡をかけても頭に影

響します。眼に合はぬ眼鏡から頭が悪くなるのを注意したいのであります。

大切な事で眼の次には鼻と喉であります。鼻をよく取扱はないと往々軟骨がはつて鼻蓋が生えます。この鼻を用ひる事を知らないものが多い。或時私がアメリカに於て講演中一青年に尋ねたら鼻は香を嗅ぐものだ云つた事を覚えて居ますが鼻は單に之だけではありませぬ、更に大切な務があります。それは呼吸です。呼吸は口でするのではなくて鼻でやるのです。何故ならば鼻のトンネルを通過すれば塵埃は鼻毛で濾されコールドエア(冷たい空氣)は暖められます。

二週間の滞在で私は日本人が綺麗好であることに氣付きましたが、それには拘らず往々日本人が口で呼吸して居るのを見受けるのであります。鼻で濾するのは無代です綺麗好きな諸君よハアー／＼と口から吸ふ人が無くなる様に努力して下さい、私は鼻を持つて居ます。而も大きな鼻です。エー鼻から吸はないで口から吸ふと色々な病氣が起ります。若し鼻で呼吸するのが困難なら其れは鼻が喉に或特殊な病があるのです。そう云ふ人は早く専門醫におか／＼下さい。打ちやうておけば体が悪くなつて顔が蒼ざめるばかりでなく頭腦の明晰を欠く様になります。私は鼻の悪いのがどれだけ諸君の頭に影響するか知ることが出来ないであります。

次ぎは齒であります。私がエール大學在學中一教授が申しました。「古代の人は三つの異つた齒を持つて居ましたが今は二つしか持つて居りませぬ。即ち野蠻より文明に變化するに従つて人間の齒は弱くな

るのです。これは料理法が進歩して御馳走があまり齒を用ひないで食べられる様になつたからです。若しも青年が齒を使はない様な飲食物を攝つたならば遂には齒がボロ／＼になつて年寄の様に顎でモク／＼とさせて食はねばならぬ様になるだらう。諸君よ齒でかめ。而してこなせ而して奥齒でグラインド(擻る)せよ。齒は使はねば段々悪くなるのです。齒を一度失へば赤ちやんならばまだしも諸君の如き青年にあつては齒醫者に行けば義齒は得られませうが然し其の健全な齒は再び得られませぬ。それ故齒をよく磨きなさい。さもないと嫌な臭が致します。で私は齒醫者や床屋になるのは大嫌です。齒をよく掃除しないと齒莖がたゞれ或は上顎が膨れ上り延いては頭に影響します。腹が悪くなります。關接ではあるが心臟を害し怒りつぽくなります。それは齒が悪い爲に色々な方面に苦しむからです。諸君齒が悪い爲に怒りつぽくなる事を忘れぬ様にして下さい。口の中には二拾許りの微菌が居ります。微菌とは何ぞやと一青年に問ひました處が虫だと答へました。虫には相違ないが小さい虫だ。此の微菌が口におると私共の齒が次第に悪くなります。其れが爲め不知不識の間に身体に一大變化を起します。故に諸君は齒磨楊枝で朝夕齒を清潔にして下さい。只今迄は私は衛生問題で外觀一般的の事を申し上げましたが今一つ大切な事で日本の青年に申したい事が有ります。それは親も知らず、先生も知らずかくれて自分の身を傷つけ滅す父兄や學校の先生も知ることが出來ず、宅の子供が蒼ざめて居る。二は裏面に性慾上の不衛生をやつておる結果其の青年がだん／＼おくれて居る。諸君が誰も知らぬと思つてやつておるなら斷

然之をやめて頂きたい。日本國の將來を双肩に擔ふ諸君よ。希はくば、性慾よの不攝生を止めて下さい。私は大いに熱望するのであります。私が或る大學のフットボールチャンピオンをやつて居りました時に指導者が我々チームを一室に集めて申しましたのに「諸君が大學のチャンピオンとして勝利を得やうと思つたならば適當なる食物を取れ。睡眠時を守れ。酒を用うるな！煙草を止めよ。而して斷然性慾上の墮落に陥る勿れ」。

これに對して私は反問致しました。曰く「フットボールの勝利を得るのに何故左様な事をせねばなりませんかと。フットボールに勝つには最善の身体と明晰なる頭腦とが大切である。以上四つの罪惡を犯す様では決して此の大學のフットボールの勝利を得ることは困難である。諸君フットボールですらこれだけの注意を要す。況んや將來社會に名譽ある月桂冠を得んと欲する諸君よ。酒を止めよ。煙草を止めよ。女に溺るゝこと勿れ。不規律なる生活を止めよ。而して最後の勝利者たれ。チャバニースエムバイヤを維持せよ。

人間は唯身体許り丈夫でも不可である。身体と教育と共に智的教育靈的教育を圖らねばなりません。身体と頭と、社交性と、靈性とが人間には含まれて居ります。人間は一人々々生活して行くを得ないのである以上社交性の必要を生ずるのであります。私は先に身体について申しましたがそれ丈に止めず、更に我々の頭の事に就て研究せねばなりません。諸君等は唯今は學校に勉強中であります。それで

學校の事を一生懸命に勉強しなさい。私の先生は申しました。青年は先づ自分で頭が痛くなる迄研究し考へよ。そうすれば私共の頭の中にしつくりと食ひこむ様になるのだと。皆さんは勉強し過ぎて居るかも知れませぬが見渡す所餘り勉強しない人が多い様だ。どうか諸君しつかり勉強して下さい。諸君は學校の教科書の中にのみ眞理が含まれて居る様に思つて居るらしい。確に教科書の中には眞理が存して居ます。然し此の教科書の作者は此の眞理を何處から得るでせう？此皆かの廣大なる宇宙の森羅萬象より得たのであります。

されば諸君は教科書を學ぶに先き達つて此の宇宙大自然の森羅萬象に接しなければなりません。然る後諸君等の智識は本當の立派なものとなるのです。今迄ふらついて居た智識もしつかりと頭に這入ります。私共がこの綺麗な日本に來て感ずる事は此の美しい國が森羅萬象に心を用ひすこの小さな本に閉ぢこめらるゝならばそれは不具な教育であると云ふ事であります。大自然の造物者の心を知つて始めて宇宙間總てこの問題の眞の解釋が出来るのであります。

第一には健康第二には智識第三には社交である。諸君は教育の一部分として社交を考へる必要があります。人間は社交的の動物である。自分々と五尺の身体に籠城して人の事を考へない様な人は本當に教育せられて居ないのである。私は皆さんには始めて會ひますが私は非常な親しみを覺えるのであります。私共は總て兄弟であります。諸君が考へない以上に充分な關係を持つて居ます。本當に人間の社交

性を充分に保つて行く時こゝに人と／＼との衝突國と國との紛争が全く除かれてこゝに怡然たる一大樂園の突現を見ることは疑ひない事であります。

第四は人間の靈性であります。健康・智識・社交此等は總て大切なことでありますが人間には更に三つでは足りないのであります。これでは未だ一大缺陷が胸の中に在ります。いくら悪い事をしない様にとしても自分の上にある或る力を信じてそれが常に自分を視て居ると云ふ考へがなければ何うしても邪道に引張り込まれ易いのであります。蔭にある見えない大きい力即ち神の信仰に導かれて始めて人間の本當の教育が完成されるのであります。私は本日此の席に連なりまして健康・智識・社交・靈性に關して申し上げてお暇を致したいと思ひます。長々御謹聴下さいまして如何にも有難う御座いました。



論壇

戰亂前の獨逸

五 丙 野 口 富 藏

戰亂前に於ける獨逸は眞に世界の覇者でした、學術上にも政治上にも外交上にも軍事上にも商工業にもはた如何なる方面に於ても第一人者と目されてゐたのでした。

今度の戰亂でも數年間の苦戰に四面楚歌の間にあつて日用品食料缺乏の苦しみの中にゐる國內に何の搔亂もなく親を國の爲に失ひ子を戰に殺してもなほ不平もなく舉國一致よく聯合軍を苦しめたのは獨逸國民固有の耳目曼魂がしからしめたとは云へ其の内治の完全であつたことを證するに足ると思ふ。又獨逸藥品染料の人荷杜絶は世界市場に如何程の恐慌を來したか。

開戰第一に潜航艇を鷗の如く動かしたのもツエツペリンが幾度となく巴里の夜を暗黒とし遠くドーバ

一の海峡を越えて英京ロンドンをも襲撃したではないか。これ等はほんの一二の例であるが以て其の學術應用の盛んを見るに足る、堅籠數年一步も敵を國內に入れなかつたのは如何に其の軍隊の精銳なりしかを知るに足らう。幾人ともしれぬ日本からの海外留學生は何處へ行つておつたか、皆んな獨逸でした。

其の獨逸がなぜ負けたか、一言にして曰へます、力の過信なのであります、今私はそれについて簡單にはんの表面をなで様と思ます。獨逸は世界の覇者ではあつたが其の振舞は余りに傍若無人でありました、この獨逸の振舞と獨逸に對する列國の嫉妬は獨逸をして世界中の憎まれ者となしました。が英國其他の國に對する、敵對の鋒銳は、ビスマルク執政の時代にはまだ顯はれませんでした即、ビスマルクは一八七〇年普佛戦争に於て佛國を散ざんに打破つて後普ねく中外に其の國家的實力を認めしめて多年の宿望たる統一的ドイツ帝國を完成してからは、外部的の膨脹を急とせず、内部的の充實に向つて盡瘁しましたこれは當時のビスマルクとしてまことに然がある可きことであります。かくして普國覇權の下に統一の事業は實現いたしました、ドイツ聯邦は各地に割據し各獨立の氣風は一般に心底にある、そして偏狹なる傳習的の愛國心はプロシヤの武力的併合に對して快くない其して郷土の怨みと其の怨恨は仲々根深いものである。

此の場合統一の破綻は國際上の蹉跌より遙に危險であつたのです、ビスマルクは此れをよく見抜いた。だからビスマルクの外交政策は帝國の統一固定を基礎として編み出されたものでありました。

ビスマルクの最初最もおそれたのは佛國でした。

佛蘭西は一八七一年、パリ城下の盟を結びてよりは歐洲に於ける覇權を失ひ莫大の償金を出し領土を割譲しました由來、燃ゆるが如き愛情を有する佛國人は此の恨何ぞ忘れんと臥薪嘗膽ひそかに復讐の時をまち志士しきりに悲憤慷慨の叫びを上げて國民の復讐熱を煽り立てたのです。或る人はビスマルクのアルサスローレンの二洲占領は佛國民の激憤をまねいて失敗だと評しますがビスマルクの心では各聯邦に共有領土を有せしめて統一の事業をたすけんとしたのです。

ビスマルクは巧に佛國の此の氣勢を挫きました或は、佛國人の結束を緩くする爲に政黨本位の共和政府を立てさせて常に黨争を起さしめて確固たる政府の設立を防げしめ、平和を愛する中等社會を援助したり或は佛國の戦後軍備の回復せざるに乘じ獨逸内に於て、少壯軍人等の、今にして佛國を一撃せずんば臍を噛むの悔あらん等との論談を佛國內に宣傳し再戦の恐る可きことを知らしめたり或は佛國のチニス占領を承認して力を國外に用ひしめ又チニス占領の事より甘く利太利を釣つて佛利の不和を生ぜしめて伊國を三國同盟に入れて佛を孤立せしめんとしうま／＼と成功したのは一舉兩得の妙技であつた。

又ビスマルクは佛英の間を離すことに苦心し殖民地に於て英佛の衝突を來さしめんとして英國の殖民經營にはあらゆる讓歩をなし、露佛の接近を防ぐ爲にあらゆる手段によつて露國の歡心を得ようとしたが萬一のことを思ふて奥國と結びました。ビスマルクが一八六六年奥太利と戦つて勝つて何等の軍

略上の土地割譲をなさしめなかつたのはこの爲めです。けれ共真正面から、露國を敵とすることはこはがつたのです。

露土戰役後一八七二年の柏林會議でも露を扶けずに奥國のボヘミヤ、ヘルゼゴビナの占領を認めました。

一寸露國を苦しめていやがらせただけです。

ビスマルクは又殖民事業によつて帝國內部の勢力を殊に團結力を外に分つことを恐れてアフリカやアジアに於けるドイツ人の活動に援助を與えずに始終英國を憚かつたのでありましたが其の晩年に及んで國民の殖民熱の炎々として正に制し難しと見るや一八八四年前後よりアフリカ太平洋方面に領土獲得を計つたものゝなほ英國に對して遠慮的な態度をとつてゐました。即一言にして曰へばビスマルクの政策は常に帝國を中心とするもので平和に眷々たるものであつたのであります。

所が今や帝國統一の成就、余剩人口、生産物販路の必要、國家經濟的發展等の問題相ついで起り、青年ドイツ國民は意氣衝天世界政策を以て世界に雄飛せんとして其の欲望抑へんとして抑ふべからず一八八八年ウイルヘルム二世新氣鋭の敏才を以て即位したのであります。

ビスマルクは帝國を中心として萬事に處するのが常であります。ウイルヘルム二世にあつては世界の大勢によりて帝國を其の間に處せしめんとする、自ら兩者の間に衝突はまぬがれないのであります。か

くしてビスマルクはついに退讓したのであります。其の後

ウイルヘルム二世は積極的に憶する所なく英露を敵としましてビスマルクのおそれた佛は今や傍系の敵となりビスマルクの最もおそれた露佛同盟はついに立ちたのであります。

時に日清戰役終り露國に於てはアレキサンドル三世死しニコラス二世即位しニコラス二世の己が從兄にして下關係約の露國に有害なるによりて其の歡心を得て露佛と近づき以て三國共同して英にあたらんとし、

一八九四年突然無意味なる三國同盟を組織して戰勝に酔へる日本をおびやかす遼東半島を支那に還付せしめたのであります。實に今以て吾々の忘れんとして忘るべからざる所であります。當時獨の高壓的な外交は彼國公使によりて遺憾なく發揮せられ今日獨人のこのことを等しく悔ゆる所であると云ふ。

一八九七年一月干涉の舌未だ渴かざるに青島を占領し、翌年膠洲灣を租借し、イスパニヤよりマリヤナ、カロリナ、バラウ、諸群島を購買し揚言して「我等の最大なる殖民的希望は大平洋にあり」と云ふ等其の横暴言語に絶する者があつたのであります。

時に英國は孤立を守つて名譽の孤立と唱へしも今其の無意義にして恥辱の孤立なるを覺り日英同盟を結んだ此れは獨帝の黃禍なる言を作り或は漫畫にかゝしめて日本の惡感を排發せると反對の結果であります。

此の當時から獨帝の勢力は下り坂であつたのです。此の時突然起つたのが北清事變であります獨帝は特意の手で東洋の覇權を握らんとし元帥ワルデルゼーを派して東洋に來らしめましたがワルデルゼー閣下また、お出でにならないのに事件は終つた然も此の事件中にて日本は其の功勳第一にして我が軍の活動は優秀第一でありました。これでも獨帝の期待は裏切られたのであります其の後日露戰役に於ける日本の大勝利に歸し、日本は旭日の勢を以て東洋に發達し、太平洋發展の獨帝の理想は夢の如く消え失せたのであります。

この時獨逸國內に於ても膠洲灣を支那に還付せよと迫る者のある程にも東洋に望を失なつたのであります。この様にして負傷だらけになつた獨帝は、佛のモロッコに英佛協商によつて勢力張をらんとするや強硬なる抗議を申込み一九〇六年アルジェラスに列國會議を開きましたが露及英は佛に加擔したので加ふるに伊國まで露佛に味方したものですから獨逸は僅に体面を保つて止みました。獨帝の心こそ平でありません。突飛をこのみ血まよつた獨帝は一九一一年突如として軍艦を遣してモロッコのアガデールに上陸せしめ佛領、コンゴの一部を得ました。此の土地は勿論荒廢の土地で何の用にも立たない所ではありましたがたゞ一兵を殺さずして威嚇によつてかゝる土地を得たと曰ふことは獨帝の自惚れをします／＼大ならしめついに今度の大戦亂の一原因ともなつたのであります。

然るに今や英國は獨の急激なる海軍擴張にそなへんが爲に地中海艦隊を擧げて北海にうつし、露佛は

軍備充實擴張に全力を注ぎ各種民屬の集合地たる奥國に於ては民族獨立の運動ます／＼盛んであります。獨逸は四方より榨木にてしめられる様な苦痛の間にあつた。

今や獨逸に於ては進むも死退くも死、同じ死ぬなら、寧ろ進んで死するまで戦はんとは獨逸人の腦裡に往來する覺悟でありました。

この様にして獨逸對歐洲諸國の對敵感情は發せんとして發せず、列國は一髮の微を以て支へられてゐたのであります。一九一四年六月二十八日ヘルゼゴビナの一青年、カプリノウツチの一彈はこの危ふい均勢を破つたのであります。

自來歐洲の天地、硝煙蔽ひ彈雨注ぎ悲惨、慘虐、破壊、慘憺の極をつくしたのであります。

かくして暴虐の獨は倒れ麗はしい平和の光が環球を再び照した、國際の間には正義あり、邪はそれ正に勝ちがたしと人はよろこぶのであります。然し私は最後に一言します。私は邪なる獨の敗北を喜びますが、正義と呼ぶ聯合國も果して正義の爲に戦ひ其のなす所ごとく正義と云へませうか話は一言にしてつぎ、英佛は勝利の爲に正義と曰はれて賞讃せられるのであると、若し獨逸にして大勝利を得たなら數しれぬ賞讃が彼の頭上に降りかゝつたに違ない。そして或は正義とよばれたかも知れぬ。

國際の間に道義あることは明かであり、正義の光の照すこともたしかであります。が然し私等は正義の、必ずあらはれるものと思へば大間違である。

何時かは照すと、然し何時かは照すであらうが、其の何時かはたして来るものと信せば又、大間違である、未來にまつと、其の意氣は賞すべきであります。

が、未來は明日である。そして明日は或は永遠に來らないものかも知れない。然も、無力の道理も、無力の正義もことごとく、有力の非理、有力の邪惡の前には如何とも手の下し様がないのであります。勝てば官軍、負ければ賊軍、此の語がすべてを表はしてゐるのです。「有力それ正なり無力それ邪なり」これが力の福音であります。諸君は「其んな事」と感へるかも知れないが、靜かに、冷かに眼をすへて眺める時に成程どうなづかれるに違ない。

しからば何故に獨逸は壞れたか、其れは力の過信であります。余りに力を振ひすぎたのです。

小人に金、聖人に仁、坊子に法の類であります。

今敗北の獨を見戰勝の各國を見る時吾人は慄然たるものがあります。「帝國をして永遠に無力の歎をばかしむるなかれ、諸君須らく強者たるべし」と私は諸君に告げます。

立志論

五乙 大橋 右一郎

今や五箇年の星霜夢の中に過ぎ果てんとす。嗚呼復た何ぞ感慨に堪へんや。去るに臨み一筆を染め、

紙上に名残を止めんとす。

人生若し大海に漂へる拾小舟の如くして、波と共にさすらふ者とせば、如何に詮なく果敢なきものならん。夫れ舟は熟練なる船頭ありて、始めて其安全を期すべく、人生も意義ある生活を送りて、始めて生甲斐あるものと云ふべし。道歩くにも必らず目的地あり。我等の一舉一動皆何等かの目的ありて爲すものならざるべからず。之れ吾人が處世に關する必須要件たるは言を俟たず。

授之れを爲す方法は如何といふに、他なし、即ち自己に確固たる志を立て、之れに向つて勇往邁進するにあり。志を立つるに必要な事三あり。一は其の高遠なる事なり。之れ吾人は尺を得んとして寸を得寸を得んとして其半分も得られざればなり。二は其時機を失せざらん事なり。如何に勝れし志を立つとも、時機を失せば何の甲斐あらむ。余は是に至つて青年老い易く學成り難し云々の金言の必要を認むるなり。尙今一つは自己の性格に應じ最も適應せる者を取る事これなり。

立志は貧困なる者能はずとは誤れり。西諺に曰く「必要は幸福の母なり」と。人間は必要に迫れば如何ともして之れに應せんと工夫せば始めは種々の苦勞も、水泡に歸す事あらんも、遂には光明に到達するなり。人生は苦海なり。見よ金殿玉樓の百萬長者も、必らず何等かの苦悶を有す。昔の偉人たるや、此逆境即ち幾度か生死の間に出没して苦悶を忍びし爲、後世に景慕さるゝなり。其窮幕の多少は感化力の大小となる。試みに卑近の例を取らん。かの登山遠足に草鞋がけにて、玉の汗を流しつゝ息も絶えん

になりても元氣を鼓吹して上り、頂上に到りて晝食を喫すれば、假令如何に不味の物と雖言ふ可からざる美味を感ず。人生の苦痛も亦然り。吾人の立志に此の逆境を善用して其真味を收得するは修養の一なり。孔子も曰く、「歳寒くして然る後松柏の凋むに後るゝを知る也」と。又かの霜雪を凌いで芳香を吐ける梅園は何故に人に賞讃さるゝかと云へば、其の苦痛に堪へしを以てなり。人生の行路は波浪逆巻き怒濤起る事頻々たり。かゝる場合には、

憂きことの猶此の上に積れかし

限ある身の 力試さん

の歌の如く我力試しと心得て、喜んで之れを迎ふべし。之れ男子の男子たる所以なり。西郷南洲の詩に曰く

幾歴辛酸志始堅

丈夫玉碎愧概全

我家遺法人知否

不爲兒孫買美田

と。彼れは子孫の爲めに美田を遺さずと誓へり。げに人は意氣込次第にて、殊に貧困なる者は死物狂の精神を以て、少しのぬかりも無く、倒れて後やむの決心あればなり。かの大富豪カーネギー氏も「銀の匙にて飲食する者は到底富豪となるの資格なしと言へり。貧困の者の立志は寧ろ富者より有望と稱すべし」。

立志は其實行に依つて、始めて其眞價を實現するを得べし。如何に善良なる志を立つとも實行を缺かば實の持腐れにて何の益かあらん。然して一旦我に鞏固なる志をたつれば、世人如何に愚弄するも、如何なる逆境に遭遇するも、決して中止すべからず。かの有名なるフルトン、ジェンナー、コロンブスは斯くの如くして、遂に成功して、其の世界に貢献せるの著大なりしは云ふ迄もなし。かの不倒翁を見よ。彼は如何に倒さんとするも起き上る。吾人宜しく不倒翁たらざる可からず。南洲は曰く、「人を相手にせず天を相手にせよ」と。蓋し自然とか天はそれ大人物なり。山水語らず、日月言はずと雖、かく能く自然を觀る者には、其の高測るべからず、其深窺ふべからざるなり。かの人間の拘拘切切たる言に脅かされ志を枉ぐれば、何時まで経つとも究竟に達する事なし。轉ぶ石には苔蒸さるるなり。

人多くは事の差支ふるに臨み、策略にて其差支を通せば、後は事宜次第工夫の出来る様に思へども、策略の煩生じて、事必らず敗るゝ者ぞ。

こは南洲の不朽の言たり。味ふべき言ならずや。夫れ善は安くして惡は難し。然るに其の難なる惡を世人は敢てするなり。我等が勇往邁進の途には幾多の煩事出來する時、須く此言を思ひ出す可きなり。

若し不幸にして事成らざるも天を咎めず。爲めに死を致すも人を恨まず。運は天にあり、成敗は人にありの精神を持つて、假令自己の身は粉塵するも飽くまで志を貫徹せざるべからず。

前途有望なる金龜城下六百の健兒、豈此に猛省せずして可ならんや。(完)

筒 袖 論

五 丙 藤 田 義 藏

筒袖論なんて大袈裟に云つたものゝ論になつてゐないかも知れないが唯小さい乍らも自分の意見を述べて見ようと思ふ。吾が所謂筒袖論とは一体何の事か。袖の着物を廢して筒袖を着ろと云ふ事ではない一言にして云へば青年らしくあれ。老人臭くなる勿れと云ふ意味だ。

いくら筒袖を着てゐたからとて氣が若くなると云ふ事もなければ袖の着物を着てゐるから老人臭いと云ふ譯もない。而し慨して筒袖をつけてゐる方がいかにも元氣に満ちた學生らしく見えるに相違ないと信ずる、自分は中學の五年に至る迄始終筒袖でやり通した事を満足に感じてゐる。又精神上に於ても肉体上に於ても幾多の波瀾はあつたがいつも若い氣分で暮して來た事を痛快にさへ思つてゐる。時々二年生か三年生位の者で早や袖の着物を着流して手を懷に入れて大人ぶつて歩いて居るのを見るが自分は之を見るといやな感じが起つて仕方がない殊にセルとか云ふ變な長い袴をはいてすまし込む中學生に出逢ふと輕蔑の心さへ起るそうだからと云つて無理に袖の着物を筒袖にして仕舞へど云ふ譯でもなければ小供の様な袴を選べとも勧めないがそれ程袖の着物を早く造つて貰はなくとも又セルの袴なんて未來の用意を今から急がなくても經濟には余り關するものでもなからうにと思ふ。男子は二十才にして冠す」と

中學生は未だ小供だ。そんな眞似をするのは専門學校に入るかそれ共卒業して實業についてからで十分だ。その様に大人ぶつてすまし込む者の中に無邪氣な快活な天真爛漫な眞に學生らしい者は決して居るまい。

昔から學生と云ふと筒袖に短袴に定つた様なものである。頼山陽の兵兒歌を見ても「衣至肝袖至腕十八結交健兒之社」と先づ痛快な學生の筒袖姿を元氣よく現はしてゐる。又どんな學生の雑誌でも長い袖長い袴をつけた中學生姿を表はした畫は出てゐるまい。吾等正氣の血の燃ゆる中學生は決してめかしたり飾つたり、すまし込んで大人振る事は要らない。そう云ふ者がわざ／＼國家の法律を犯して迄有害な煙草を吸ひ又一日中で一番楽しい待遠しい晝辨當をも皆と共に食べすにうどん屋なんかへ抜け出るのだ自分はこう云ふ事は大反對である。蠻柄に眞面目に愉快に無邪氣に勉強し且遊ぶのが學生の本分だと思ふ。世には然し蠻柄と云つて無暗に變つた風をするのみか反つて學校の正服以外の事をして喜んだり見にくい風をして天晴れ豪傑と鼻高々とする者があるが、あれで意張つてゐる心の中が知れない。又眞面目と云つて少しも友達の附合もせず、無邪氣と云つては小供の様な眞似をするのは馬鹿だ。學校で流行する言葉で云へばストロンドだ。そんな事は今更云ふ迄もないが要するに眞に中學生らしくあつて欲しい。

我が彦根中學校は實に理想の場所にあつて他に見ざる歴史を有する天下に誇るに足る否誇つても尙余りある學校である。畏くも大演習には大本營行在所の榮を擔ひ朝夕仰ぐ金龜城は三百年の英雄の跡を語

つて吾等彦中生徒の行動を睥睨してゐるではないか。この名譽ある學校の風聞中に近ごろ彦中は奮はんとか元氣がないとか云ふ言が發せられるとは實に彦中の一員として慨嘆に堪へない、之れ將誰の罪誰の責任か？不眞面目な中學生の体面を汚す如き者を退け眞面目な中學生らしい氣風を全校に漲らし以てこの天恵に應ずるのは實に吾が彦中現下の最大急務である。

終りに臨んで後進諸君に切に祈る諸君が自重を諸君が自奮を。(終)

同情

五丙 藤野 貫了

諺に『旅は道連れ世は情』と言ふが、今では世の中が開けて金さへあれば、どんな知らぬ旅の空でも少しの不自由も感せず、どんな遠い他國でも少しの不便もなく、愉快に楽しく旅をする事が出来るが、それでも人情も風俗も知らず、言語も氣候も異なる萬里異域の旅の空に於て、雨の晨、風の夕を獨り淋しく送らねばならぬとすれば、何んな人でも寂寞の情に堪へずして、人戀しく連れ欲しき思ひの起らぬ者があらうぞ。それと同じ事で荒浪の荒れに荒れたるが如く、濁流のいやが上に濁りたるが如き世に處しては、誰か清き美しき同情を思はぬ者があらうぞ。若し我々が人生の旅に立ちて同情の道連れがなかつたならば、荒涼寂寞の情に堪へずして、殆んど人生の旅を安全に送ることが出来ぬであらう。而も此

の同情は人類の自然に有せる至美の情操であつて、どうしても之は抑ゆる事の出来ぬものである。誠に同情は人類の本性であつて、愛と云ひ、仁と云ひ、慈悲と云ふも皆此の心の廣大されたるものである。されば佛陀は申すに及ばず天地、草木、禽獸に至るまで此の本性を有して居らぬ者はないのである。此の同情慈悲の大精神に依つて天地宇宙は活躍して居るのである。社會人性に光明あり平和あるは、この清き美はしき同情慈悲がある爲めである。若し世の中に同情慈悲がなかつたならば、さながら闇黒で、人類は全く鬼畜に外ならぬのである。

俗諺に『梅は香よ、櫻は色よ、人は同情の蔭に住む』と云ふのがあるが、梅花の特色は百花に先立ちて雪中に立ち、馥郁たる香を放つて居る所にあるのである。櫻花は春の朝に於て旭日と相映發して居る美はしき色彩に其の特色があるのである。人間には強いもの、賢いもの、清きもの、正しきもの種々あるけれども、同情即ち仁の徳あるによりて人は一層の光輝を増すのである。人間は強いばかりや、賢い許りや、清き許りや、正しき許りで世の中が渡れるものでない。美はしき暖き同情によつて始めて社會人生に平和の春風が吹き渡りて人生を淨土化する事が出来るのである。

これに就き畏くも、明治天皇は殊に此の同情慈悲の御心に富ませ給ひ、御一代の間、只管萬民を愛撫し給ひ、恐れ多くも時には殆んどあやに貴き玉體をも御忘れさせ給ひて、

この春は梅うぐひすも忘れけり

民やすかれと思ふばかりに

と御軫念あらせ給ふたのである。其の限りなくありがたき聖恩の程は今なほ國民の齋しく感謝して措かぬ處であるが、其の限りなき大御心は終に禽獸にまで及んだのである。又或る時の御製に

池水は氷らぬかたもなかりけり

いづこか鴛鴦の夜床なるらむ

とあるは、寒夜鴛鴦を思ひやりて詠ませ給ひしもので洵にあはれ深き限りである。又嘗て明治九年の夏六月八日、日光行在所を出でさせ給ひて中宮祠に行幸あらせられし折、村民、社務所に來りて一頭の大鹿を献じた。天皇御感斜めならず、村民に物數多取らせて歸らしめ給ひ、やゝありて『あの鹿放ちやるべし』と侍従に命じ給うた。侍従は今宵の供御にこそなご竊に思ひ居たるに、聖恩洪大、御恵みの禽獸に及べるを深く感じ奉つたと拜承する。洵に限りなき廣大なる御同情である。

又俳人松雨の妻が詠みたる

我子なら伴にはつれじ夜の雪

の句、又

思へたい使ふも人の思ひ子を

我が思ひ子に思ひくらべて

の歌は共に同情の溢れ出でたる響であつて深く味ふべき名吟である。尙此の同情の普及は唯人と人との間のみならず、これを一切の動物にまで及ぼしては、前の明治天皇の如き廣大なる御同情と現はれ、又俳人一茶が

やれ打つな蠅が手をする足をする

瘦せ蛙まけるな一茶こゝにあり

となり、或は

行水のすて所なし蟲の聲

てすりにもたれて化粧の水を

何處へすてよか蟲の聲

となり、之を植物に及ぼしては、千代女の

朝顔に釣瓶とられて貰ひ水

の句の如きである。

斯様に天地を以て同情の顯現、宇宙を以て慈悲の凝塊と心得て、人生に限りなき趣味を感じるもので

あつて、吾々は努めてこの美はしき同情の精神を發達せしめねばならぬ。世の中には何事も冷やかなる理屈一片で押し通さんるものがある。理屈で解決の付く事は固よりそれで押し通すも結構であるが世の中の事は多くは理屈を以て解するよりは暖かい同情を以て打ち解けた方が解決も早く味ひも深いのである。理屈の力では到底爲し得ざる行爲、又は仕事までも、同情の力は實際に於て其れを能く爲し果すものである。誠に同情は人類自然の本性である。そうして此の同情の極致慈悲の終局は佛陀である。何人も佛陀と同様にとは勿論云へぬがある度まで同情の精神が發達したならば、自己を犠牲に供して顧みない行爲が出来るのである。されば我々は益々其の本性を發揮して人生に光明あらしめ、社會に平和の春風を吹き渡らしむる様大に努力せねばならぬ。

体育と娛樂

五 甲 椋 田 眞 次 郎

櫻花咲き匂ふ春陽の頃又は炎熱燒くが如き盛夏の折白いユニホームの姿凛々しく寄宿舎を背景として野球に親しむ人、又は秋の天高き時コートの上に魔球を戦はさんとする若者或は白雪伊吹の山脈に皚々たる嚴寒のみぎり一枚の稽古衣に寒さを忘れて技を磨いで居る武術の士、皆是我が彦中健兒であります。此の如く四季折々我が校の運動の絶える事なく、眞に盛な様でありますが其の實大いに異なつて居る

のであります。嘆かほしい次第です。

我校運動部の黄金時代は既に去つたのであります。此の秋に當つて吾人は此の彦中運動界を衰廢の淵より救ひ上げる重大なる義務があります。

「然らばそは如何にすべきぞ」と云ふ問題です。「即ちボートを盛にすべし、庭球を野球を盛にすべし、亦各運動を正課として奨勵すべし」です。運動の盛ならざる國の弱いと同様に、又運動の盛ならざる學校は衰へるものです。

諸君考へ給へ昔スバルタの盛大であつた時は如何に運動の盛大であつたかを、運動衰へ其の國は亡びたではありませんか。運動は人の生命であります、國の生命であります。故に我々は運動を盛大にして我彦中の校名を天下に轟かさなくちやならないと思うのです、故に私が過去五年の間選手の一人としてやつて参りました野球即ち競技運動、団体運動の面白味及其の効果を説いて諸君に御勸めしようと思ふのであります。

偕て一年間を人生に例へて見ますと秋は壯年時代であり、冬は老年其して春は少年時代であります。まずれば夏は青年時代でなくてはならないのです。

即ち夏は萬物總て活躍し、天には強烈なる所の太陽輝き、地には綠葉山野を掩ひて、熾烈な色彩を見るのであります。青年は須らく總ての意味に於て強烈でなくてはなりません、此の意味におきまして青

年の運動季節は、夏期を以て、最も適切なるシーズンと私は思ひます。

我々青年の活動は此の夏であり、而して夏を措いて、外に求める事は出来ないであります。

次に各種の運動を現今奨励して居ります各學校の主なる目的が体育に在る事は言ふまでもない事ですありますが、全体如何なる運動にしましても、我々青年の筋骨を鍛鍊する上に大なる効果のある事は何人も認めて居る所であります。然し運動が單に体育本位であるとしたならば、目下行はれて居る運動の中には随分疑問となる可きものが有りはせぬかと思ひます。

勿論今日行はれて居る、ランニング、ボート、野球、庭球、擊劍、柔道、相撲、スキー等の如きは何れも体育の爲に大なる貢獻を爲して居る事は、疑ふ余地もありませんが以上述べた運動の中には多くの金と場所とを要するものと又然らざるものとあります。

体育の立場から見ますと可く金と場所とを要しないものを選ぶ事が得策であります。

然らば最も金と場所とを要しないランニングなる物が、ボート、野球又はテニスとか云ふものと体育上同一の結果が得られるものならば寧ろランニングの如き、あまり金錢を要しない。運動のみを奨励しては、どうかと云ふ議論が起るのでありますが、然し徒歩を一般的運動法となす事の出来ないのは火を見るより明なる事であります。それは諸君世界各國の人々が此の簡易なる運動法に、よらずして種々なる運動法を工夫したのは決して偶然の事ではありませんまい。

運動が一面に於て体育を目的とすると同時に、他の一面に於ては娛樂を與ふるものである事は近來益々認められて來たのであります。私が今云ふ「体育と娛樂」の娛樂と云ふものは單に運動を爲す人々がこれによつて愉快を感じるのみならず、傍に在て之を見物する者にも一種の感興をあたへる事を意味するのであります。

徒歩は徒歩する人に多少の愉快を與へるには相違ありませんけれども、見物人に對しては、あまり面白味を與へ無いであろうと考へられます。此にくらべますとボートレースの如きテニス、角力又は野球競技の如きは体育以外に娛樂と云ふ重要な要素を有して居ります。故に運動競技を体育の爲のみであると考へて居りますのは全く舊式の思想であつて、よろしく未來の大日本帝國の中堅ならんとする現代青年は一日も早く運動競技が娛樂の方面にある事を認めると同時に、益々此を高潮せねばならないのであります。

偕て通球の競技場としては少くとも三千坪以上の運動場を要するのでありますからして、前に述べました、体育の立場より考へて見ますと云ふと多くの費用と場所を要しますからして種々なる議論が起るかも知れません。然しながら其の裏面、即ち体育と娛樂と云ふ方面から考へますれば其の効果は實に大なるものです。彼の世界の強國たる米國がナショナル、ゲーム(國技)として盛大に行つて居りますのも決して偶然の事ではないのであります。

次に此の廣大なる場所を少數のナインに獨占せしむる事を不公平なり、として議論をして居る人々もあるそうであります。然し斯る議論を主張して居る人々は運動の目的が單に体育に在ると、信じて居るのみで、所謂楯の一面を觀察して居る所の頑固者で、チヨンマゲ時代の思想を持つて居る者であります。勿論グラウンドを出來得るだけ多數の者に開放するのは望ましい事ではありますが、野球の性質として、部員の人数に制限を加ふる事は已むを得ない事であります。今かりに選手制度を全廢しますれば毎日運動場を三四十人の者に開放する事が出來るとしましても、其が果して野球を隆盛にさすのでありませうか、頗る疑はしい次第であります。

三千坪以上のグラウンドを少數の選手に専有せしむるのは一見甚だ不都合の様であります。前に述べた、娛樂と云ふ方面より考へますと此の問題も容易に了解する事が出來ると思はれます。

即ち野球競技を爲す者は九人に限られては居りますが、大なる興味を以てマツチを見物するものは數千人に達し、都會等では、時に數萬人を越えること云ふ事です。此の點より見ますと數千坪のグラウンドは、實に數千人、數萬人、或は數十萬人の人々によつて利用されて居るのです。

諸君娛樂の要求は人間の共通性であります。若し吾々學生に健全なる、娛樂を與へ無かつたならば、彼等は芝居、活動寫眞又は浪花節等に對して興味を感じる様になるであらう。屋内に閉ぢこもつて臭い空氣を呼吸しながら、右の如き娛樂を貪るよりも、日光に曝され、清き軟風に吹かれつゝ壯快なる

野球競技又は他の競技運動を見て居るのは、其の間には大なる相違があるのであります。

以上述べました如く野球は優秀な團體運動であつて、團體の利益を謀るには指揮者即主將の命令には絶対に服従する事が必要であります。若し主將の動作又試合に於て例へ失策がありしとて此れに反抗するが如き事がありましたならば、かくの如き選手は競技運動の意味及び体育の立場と云ふ事を解せぬ者であります。

尙團員は自然に服従の徳を養ふ事が出來ると同時に。選手は如何なる境遇に在つてもよく規律を守り又苦痛に打勝つ事が出來るのであります。我國民の如く自治の精神に缺けて居るものは、よろしく團體運動に依つて、此の精神を養ふ可きではありますまいか。

終りに望みまして、野球競技は、全く音樂的であります。ボールが一度白線美しき運動場の一角に飛びますと、九人の陣形は忽ち變じ其の動作は一絲亂れずと云ふ有様を呈するのであります。實に面白いではありませんか諸君。音樂の美がハーモニー(調和)にありとしますれば、野球の妙も同じくハーモニーに在るのであります。

諸君一般練習の設備は不完全ながら設けられてあります。大いに此の器具により身體の健全を御互に計らうではありませんか。

尙一言いたしますが以上述べました事は、ある一部分の諸君には我田引水の様に思はれませうが、私

は只野球を例として一言述べました迄です。單に野球に依らず、ボートを好む人は海原へ、テニスの人はコートへ、ランニングの人はトラックへ、それ／＼自身が好む所へ向つて活動して大いに我校運動界の氣焰を吐き、共に／＼健康を計らうではありませんか。(完) (一九二〇、七、二二)

青年の夏期登山

五 乙 八 木 法 雲

避暑には山に行くべきか海を選ぶべきかに對しては、各人の意志によりて異り、確固たる解答をなし得べからざるも、吾人は山を愛す。

夏の涼味は先づ水にあり、されども海濱は砂焼けて暑く海水亦温氣あるを感ず、たゞ太陽西に沈める時、煙波渺茫千里の海上を吹きくる晚風に沿しつゝ、快談するの樂、早朝小波の打ちよする汀を歩む心地、海や日光を吸ひて紺碧の色強く、怒濤は岨り立つ岩石を噛みて白雪を空に飛ばす壯觀は海の賜ならざるべからず。

されども人寰をはなれたる空山に、岩間よりもれ來りて銀鈴を弄するが如き清音立てゝ流るゝ溪流に小魚の游泳するを見る心地、白雲常に往來して雲突く松柏の梢をおほふ景、涼想の大團月の懸りし森林や如何に人心を爽にし、清冷にすることならん。

海は動的なり、水泳漕舟の運動に可なり。山は靜的なり、靜坐讀書の修養に好し、されども山は亦好活動場裡なり、今や流行を來さんとする登山之なり。併れどもこの登山たるや小山よりも雲外の高峯、脚下に群山摺伏して蜿蜒と連り、四面一帯の平野一眸の内に集る所たらんか、是の時始めて人間界の小にして自然界の如何に偉大なるかを知らん。凡そ青年の志氣を鼓舞し抱負遠大の氣を養成すべきものは山岳登攀なり。

これにつきて思ひおこせる西洋雄士の大登山を語らん。西洋紀元前三世紀の頃、亞弗利加の北端、伊太利に相對して、地中海に臨める一角に大都城を造營したる帆檣林の如く立てる商港、これカルタゴなりき。而て地中海をせましとなして其の勢をふるひ居たり、當時勃興して隆盛に向ひつゝありし羅馬なり、兩雄遂に並び立たず遂に雌雄を決する大戰第一第二のポエニ戰役を起せり。

西紀前二一八年、ハンニバル將軍は歩兵九萬騎兵一萬に千象三十有七の大軍隊を組織し、長旗短旗を春風にひるがへしつゝ堂々進軍せり、而れども途中ビレネーの難山を超へ、アルプスの高峯アルペンに達せし時、あたかも嚴寒肌をさす冬の最中なりき。見渡す限り白皚々たる連峯、夏尚ほ消ゆるなき岩間の雪の上に更に積りし數尺の雪は人馬の影を沒して、行軍すこぶる艱難を極めたり。勇悍なる土人の僅かに夏季のみ越え得る世界最高峯アルペンの峻嶺、嚴冬積雪數十尺の時に當りて、人馬十萬の大軍を越さんとするその困難や想像するだに安からず。